

StyleEditor ドキュメント

【StyleEditorとは】

Web上に公開されているページの表示を、自分の好みに合うようにカスタマイズするためのプラグインです。

カスタマイズした設定内容は、スタイルファイルとしてエクスポート/インポートすることが出来、インターネット上で公開されたスタイルファイルをインストールすることも出来ます。

【使い方】

編集画面の表示

Sleipnirのメインメニューの[ツール(t)] [現在の Web ページをカスタマイズ(a)]で表示することが出来ます。

上記メニューが追加されていない場合は、同じくSleipnirのメインメニューの[表示(v)] [Dock] [StyleEditor]で表示することが出来ます。

編集画面の使い方

表示しているページの表示設定を変えたい箇所をマウスでクリックします。するとその場所が選択され、赤く網掛けが掛かります。

(クリックした箇所だけでなく、ページ上の似たような要素も選択されます)
要素を選択したら、編集画面の右側のプロパティリストの内容を変更すると、ページの表示が変更されます。次回同じページを開いた時も設定した内容に基づいて表示されます。

スタイルファイルの設定内容表示

編集画面の左側には、現在のページのスタイルファイルの設定内容が表示されます。上から、

設定名	編集開始時にページのタイトルを暫定で設定します。
説明	このスタイルファイルの説明を記述します。
対象URI	このスタイルファイルの適用対象uriを示します (uriにワイルドカードを含めることができます。)
編集時URI	このスタイルファイルを編集する時に表示されるuriです。 (管理画面から「編集」を選択した場合に表示されます。)
CSS	ページに追加するCSSの内容をテキストで設定します。
スタイル設定	プロパティリストから設定したカスタマイズ内容を表示します。

また、表示されているページに複数のスタイルファイルが存在する場合は、上部の一覧から選択することが出来ます。

いずれかの項目を選択し、鉛筆マークのボタンをクリックすると、編集することが出来ます。

スタイル設定はプロパティリストから編集することが出来ます。

また、xボタンをクリックすると、選択されたスタイル設定を削除することが出来ます。

右クリックメニューから選択中のスタイル設定をCSS形式でクリップボードにコピーすることもできます。

現在の文書の構造

編集画面の真ん中の部分には現在表示されているページの構造が表示されます。ここから要素の選択を行うことも出来ます。このペインにはボタンが3つあり、左から

- 編集モードに移行
- 閲覧モードに移行
- スタイル設定ファイルの管理ウィンドウの表示

という機能を担っています。

ツリー構造内での右クリックメニューには下記の項目があります。

- 全て開く
- 全て閉じる
- 選択項目より下を開く
- 選択項目より下を閉じる
- 選択項目以外を全て閉じる
- ソースの表示

「ソースの表示」は現在選択されている要素以下のHTMLソースを表示します。それ以外のメニューはツリー構造の開閉に関するものです。

編集モードと閲覧モードについて

編集モード中はプロパティを編集したり、スタイルファイルの内容を変更することができますが、閲覧モード中はこの編集機能を使うことはできません。閲覧モード中はページ上のリンククリックによって移動することが出来ます。編集モード中はリンククリックによるナビゲートは無効になっています。

プロパティリスト

編集画面の右側の領域はプロパティリストです。選択中の要素のCSSプロパティが表示されます。入力候補のドロップダウンリストから選択して、編集することが出来ます。

選択中の要素

「選択中の要素」エディットボックスには現在選択中の要素を表すセレクタが表示されます。また自分でセレクタを入力して「Enter」またはエディットの右側のボタンをクリックすることにより、要素を選択することも可能です。その際サポートされるセレクタは現在のところ下記の通りです。

* universal selector

E type selectors
E F descendant selectors
E > F child selectors
E:first-child the :first-child pseudo-class
E:nth-child an E element, the n-th child of its parent
E + F adjacent selectors
div.warning class selectors
E#myid id selectors

* :nth-child 擬似クラスは nth-child(整数) という形式のみサポートします。

また下記の擬似クラスについては、StyleEditorはスタイル設定時の整合性のチェックは行いませんが、そのままページCSSに追加しますので、正しく設定されていれば、結果的に効果を得られることとなります。
(元のページCSSの記述によっては効果が得られないこともあります。)

E:link
E:visited
E:active
E:hover
E:focus

詳細選択

ページ上または「文書の構造」のノードをクリックして要素を選択するとき、似たような意味の要素も一緒に選択されますが、クリックした要素だけを選択したい場合、Shiftキーを押しながらクリックします。
そうすると、クリックした要素1つだけが選択されます。

スタイル設定ファイルの管理ウィンドウ

スタイル設定ファイルの管理ウィンドウはメインメニューの
[ツール(t)] [スタイル設定ファイルの管理(c)...]から表示することが出来ます。
また、編集画面の「現在の文書の構造」ペイン上のボタンからも表示することが出来ます。

スタイル設定ファイルの管理ウィンドウには作成された、またはインストールされたスタイルファイルの一覧が表示されます。
下記の6つボタンがあります。

編集 選択されているスタイルファイルを編集します。
削除 選択されているスタイルファイルを削除します。
無効 / 有効 選択されているスタイルファイルを無効化 / 有効化します。
(無効化されていると、ページ表示時に反映されません)
インポート ディスク上のスタイルファイルをインストールします。
(ファイルを開くダイアログが表示されます。)
エクスポート 選択中のスタイルファイルをディスクに保存します。
(保存ダイアログが表示されます。)
閉じる スタイル設定ファイルの管理ウィンドウを閉じます。

written by kenjiro